

実験計画書

指摘された箇所は赤で記述

実験名称(例)

オノマトペ変換システムについての検証

実験目的(何を調べるか・システムの何の有効性を調べるか)

オノマトペを音に変換した時の二者間への効果を検討する。

因子分析と標準因子得点の回帰分析を用いる予定

仮説 実験の分割(仮説が多すぎるかも(H2とか) もっと抽象的でもいいかも)

H1: 音付けによって集中力が上昇するか、朗読難度・内容理解が容易になるか

H2: 音の強さ・大きさ・量によって集中力が上昇するか、朗読難度・内容理解が容易になるか

H3: 音のタイミングによって集中力が上昇するか、円滑に話が進むか

...

Hn:

実験設定

実験条件:(例)

要因A: 音の強さ

A1: 強い

A2: 普通

A3: 弱い

要因B: 音の大きさ

B1: 大きい

B2: 普通

B3: 小さい

要因C: 音の量

A1: 多い

A2: 普通

A3: 少ない

(例)2要因合計6条件の被験者内実験計画

A1B1:

A1B2:

A1B3:

A2B1:

A2B2:

A2B3:

A3B1:

A3B2:

A3B3:

全(n×m)〇〇条件 実験参加者〇〇名(順序交差)

実験条件順番は, 例えば:

patterns order of conditions

pattern 1 1 2 9 3 8 4 7 5 6

pattern 2	2 3 1 4 9 5 8 6 7
pattern 3	3 4 2 5 1 6 9 7 8
pattern 4	4 5 3 6 2 7 1 8 9
pattern 5	5 6 4 7 3 8 2 9 1
pattern 6	6 7 5 8 4 9 3 1 2
pattern 7	7 8 6 9 5 1 4 2 3
pattern 8	8 9 7 1 6 2 5 3 4
pattern 9	9 1 8 2 7 3 6 4 5
pattern 10	9 8 1 7 2 6 3 5 4
pattern 11	1 9 2 8 3 7 4 6 5
pattern 12	2 1 3 9 4 8 5 7 6
pattern 13	3 2 4 1 5 9 6 8 7
pattern 14	4 3 5 2 6 1 7 9 8
pattern 15	5 4 6 3 7 2 8 1 9

質問項目:(例)

Q1-Q4〇〇感・性

Q5-Q13〇〇感・性

Q14-Q15〇〇感・性

Q16-Q17〇〇感・性

Q1

Q2

Q3

Q4

Q5

Q6

Q7

Q8

Q9

Q10

Q11

Q12

Q13

Q14

Q15

Q16

Q17

余剰変数の統制

>環境:少し雑音が入る空間のほうが良いかも

オンラインで行う予定

オンラインで実験したほうが良い(参加人数の問題等がある)

例えば, 事前に適合的溫度を控える)

>実験する場所:

>実験材料(例)

パソコン(型番)

イヤホン・ヘッドフォン・スピーカーどれが良いか検討中

パソコン上での音量バランスは人によって異なるため、youtube上などで各々適切なバランスに整えてもらう

← 細かすぎる差異は無視するしかない(人によって鼓膜が違うように)

机、椅子

実験手続き

教示内容:ボリュームチェックなどを行い、操作方法などについて練習をしてもらう。複数のパターンの音源を聞いてもらう。アンケートに回答してもらう

(例)

このように一回練習してもらい、実験を始める。実験が始まると、口頭指示をし、様々な条件を被験者に表現する。

実験条件に応じて手動で空気砲を利用し、触覚を与える。

最後に、アンケートに回答してもらう。